土木學會副會長

鐵道次官 從四位勳二等 八田嘉明氏

鐵道次官八田嘉明氏が土木學會の副會長に推擧された。本年新に會長に推擧された田邊博士と云ひ八田次官と云ひ何れもトンネル工事に於て日本のオーソリチーであるのは遇然の機會とは云へ面白い對照である。

八田氏は明治三十六年に東京帝大を卒業された、今や人生の働き盛の人である。土木技術家として鐵道の大先輩は相當にあるが、次官と名のついた人は岡野昇博士と八田氏だけである。八田氏は政治的の背景なく眞に實力を以つて次官の位置を完ふする事既に爰に四年である。温厚にして眞面目なる氏の人格は建設事務所勤務の當時から緻密なる技術的の研究となつて日本の工事技術を發達助長するに多大の貢獻があつた。

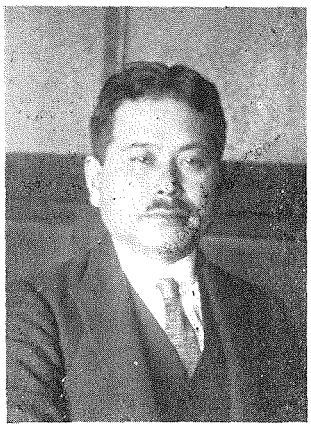
○

横黑線の折渡隧道は地質不良の難工事であつた事は日本の隧道工事としての新記錄であつた、八田氏は秋田建設事務所長として其所に初めてシールドメソッドを採用して兎に角あの難工事を完成した。而して之がため日本の工事に種々の刺戟を與へた。

○

次に重要な事は鐵道工事に直轄制度を採用された事である、直營工事と稱する人夫を請負にする制度は以前からあつたが、直轄工事は鐵道省が直接職工、人夫を雇入れて其工事に適當なる訓練と配置をするもので、飯場も作り、材料、機具一切を集めるものである。

現に鐵道省の大隧道工事は殆んど直轄工事で施行されてをる。此の制度は請負業者から云はせると有り難くないが、然し之が動機となつて日本の工事技術を發達せしめた點は非常なる貢獻と云はねばならぬ。直轄工事あるが爲めに日本の請負工事も次第に合理的施工法を促進して來たのである。



土木學會副會長
八田嘉明氏

○

次官としての八田氏が昨秋御大禮に際し鐵道運輸の方面を無事に奉仕されたのは世間周知の事であるが、其他にも大小の記すべき事もあるが尙ほ爰に重要な事がある、それは鐵道建設規程の改正である。之は目下委員會を設けて充分に審議され大體の成案は出來てゐるから本年内には纏まりがつく事と思はれる此の建設規程の改正と云ふのは、從來の規程は唯一種類であつたものを、線路の使命の大小輕重に應じ即ち地方の產業經濟の事情と其運輸數量に應じて甲、乙、丙の三種類位に等級を作り、線路の規劃を決定せんとするものである。此の規程の差別は線路に投下する資本の合理的節約となるもので、從來の單一制度に比し劃時代的の進步であると見られてをる。

○

土木學會としては本年の萬國工業會議と云ふ重要な催しに參加してをる。田邊會長及び八田副會長の適任を得て此の好機會の名譽ある事業を圓滿に果さるゝ事を誰もが期待してをる處である。